

小規模企業の景況

(2022年4～6月期)

大阪商工会議所による小規模企業の景況調査(四半期毎)2022年4～6月期の結果概要は以下の通り。今期(2022年4～6月期、調査基準日:6月1日)の業況判断DIは▲19.6と2期ぶりに上昇し、前回調査から15.3ポイントの大幅な改善となった。売上額DI値は▲11.0(前回調査から23.3ポイント改善)、従業員過不足DI値は▲13.4(前回調査からマイナス1.6)となった。「経営上の問題点」では、製造業で「原材料価格の上昇」が3期連続して第1位となり、卸売業で「仕入価格の上昇」が第1位に浮上、小売業の「仕入単価の上昇」とサービス業の「材料等仕入単価の上昇」がそれぞれ第2位となった。

1. 今期(2022年4～6月期)の状況

【売上額】今期(2022年4～6月期)の売上額DI(全産業)は、前回調査(2022年1～3月期の▲34.3)から23.3ポイント改善し、▲11.0となった。業種別では前回調査から、小売業の41.4ポイントをはじめ、製造業が7.8ポイント、卸売業が24.4ポイント、サービス業が22.0ポイントそれぞれ改善した。

【資金繰り】今期の資金繰りDI(全産業)は、前回調査(▲24.6)から8.1ポイント改善し、▲16.5となった。業種別では前回調査から、製造業が3.9ポイント、卸売業は1.8ポイント、小売業が16.5ポイント、サービス業が9.8ポイントそれぞれ改善した。

【業況判断】今期の業況判断DI(全産業)は、前回調査(▲34.9)から15.3ポイント改善し、▲19.6となった。業種別では前回調査から、製造業が7.8ポイント、卸売業が13.3ポイント、小売業が26.8ポイント、サービス業が14.7ポイントそれぞれ改善した。

【従業員数過不足】今期の従業員数過不足DI(全産業)は、前回調査(▲11.8)から1.6ポイント悪化し、▲13.4となった。業種別では前回調査から、製造業は横ばい、卸売業が1.5ポイント、小売業が8.5ポイントそれぞれ悪化、サービス業は2.5ポイント改善した。

2. 来期(2022年7～9月期)の予想

来期(2022年7～9月期)の全産業の予想DIは、売上額▲10.7、資金繰り▲11.3、業況判断▲15.8となった。

3. 経営上の問題点

製造業で「原材料価格の上昇」、卸売業で「仕入単価の上昇」、小売業で「消費者ニーズの変化への対応」、サービス業で「需要の停滞」が第1位となった。

※DI値とは……ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、本調査では前年同期(2021年4～6月期)と比較して売上額、業況判断、資金繰りなどが「増加」「好転」したなどとする企業割合から、「減少」「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

【調査の概要】

- ・調査名：第168回中小企業景況調査（中小企業庁・中小企業基盤整備機構）
- ・調査時期：2022年5月23日～6月1日（前回：2022年2月16日～3月1日）
- ・調査方法：経営指導員による、調査票に基づく聴取り調査
- ・調査対象：大阪市内の中小企業・小規模事業者
 - ※ 全国7,905件中、大阪商工会議所分324件。
 - ※ 本紙では、大阪商工会議所分のうちとくに小規模事業者（従業員：製造業20人以下、商業・サービス業5人以下）291件について取りまとめた。
〔製造業77件、卸売業63件、小売業69件、サービス業82件〕

■DI推移（全産業）

	165回調査	166回調査	167回調査 (前回)		168回調査 (今回)	
	2021年(R3) 7～9月期	2021年(R3) 10～12月期	2022年(R4) 1～3月期	2022年(R4) 4～6月期	2022年(R4) 4～6月期	2022年(R4) 7～9月期
売上額（増-減）	-29.6	-21.0	-34.3	-17.0	-11.0	-10.7
資金繰り（好-悪）	-21.3	-16.4	-24.6	-20.1	-16.5	-11.3
業況（好-悪）	-29.3	-25.2	-34.9	-20.1	-19.6	-15.8
従業員（過-不）	-9.1	-12.6	-11.8	—	-13.4	—

■経営上の問題点

順位	製造業	件数	卸売業	件数	小売業	件数	サービス業	件数
1位	原材料価格の上昇 →	36 (26)	仕入単価の上昇 ↑	26 (20)	消費者ニーズの変化への対応 ↑	12 (9)	需要の停滞 →	13 (13)
2位	需要の停滞 →	14 (20)	需要の停滞 ↓	17 (21)	仕入単価の上昇 ↓	11 (10)	材料等仕入単価の上昇 ↑	12 (4)
3位	製品ニーズの変化への対応 ↑	6 (4)	販売単価の低下・上昇難 →	3 (4)	その他（コロナ禍による消費の低迷・物不足等） ↓	9 (10)	利用者ニーズの変化への対応 →	9 (7)

[注]（ ）内は前回（2022年1～3月期）調査結果

↑ = 前回より高順位

→ = 前回と同順位

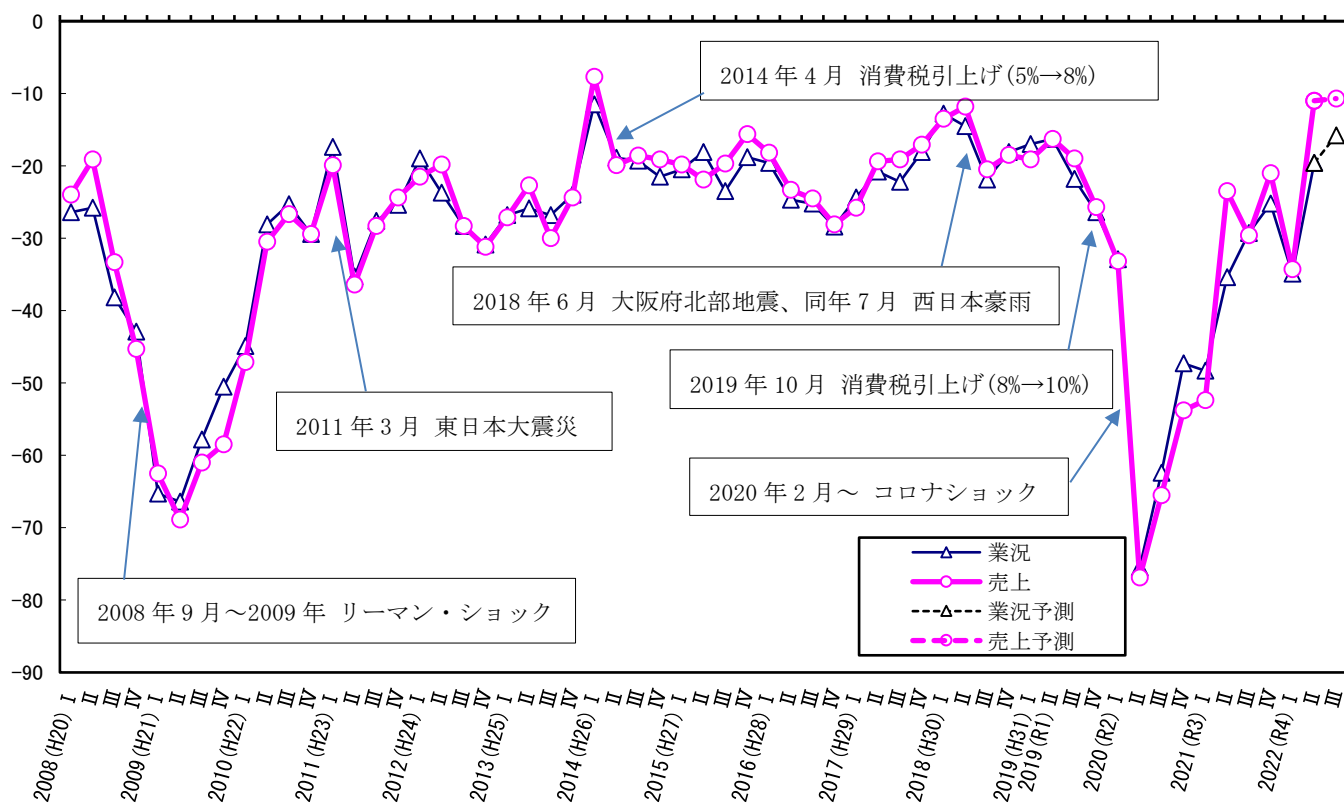
↓ = 前回より低順位

■ 状況比較表（業種別）

項目	業種	今期の状況(4~6月期)				前回(1~3月期)からの推移	来期の予想(7~9月期)			
		増加	不変	減少	増一減		増加	不変	減少	増一減
売上額										
	製造業	24.7	40.3	35.1	▲ 10.4	7.8	15.6	48.1	36.4	▲ 20.8
	卸売業	31.7	22.2	46.0	▲ 14.3	24.4	28.6	27.0	44.4	▲ 15.9
	小売業	29.0	29.0	42.0	▲ 13.0	41.4	33.3	33.3	33.3	0.0
	サービス業	31.7	29.3	39.0	▲ 7.3	22.0	24.4	45.1	30.5	▲ 6.1
	合計	29.2	30.6	40.2	▲ 11.0	23.3	25.1	39.2	35.7	▲ 10.7
	前回	16.6	32.2	50.9	▲ 34.3		22.5	37.4	39.4	▲ 17.0
資金繰り		好転	不変	悪化	好一悪		好転	不変	悪化	好一悪
	製造業	3.9	77.9	18.2	▲ 14.3	3.9	11.7	71.4	16.9	▲ 5.2
	卸売業	4.8	76.2	19.0	▲ 14.3	1.8	1.6	74.6	22.2	▲ 20.6
	小売業	5.8	63.8	29.0	▲ 23.2	16.5	8.7	62.3	27.5	▲ 18.8
	サービス業	7.3	69.5	22.0	▲ 14.6	9.8	11.0	73.2	14.6	▲ 3.7
	合計	5.5	71.8	22.0	▲ 16.5	8.1	8.6	70.4	19.9	▲ 11.3
	前回	4.5	65.4	29.1	▲ 24.6		6.2	66.1	26.3	▲ 20.1
業況		好転	不変	悪化	好一悪		好転	不変	悪化	好一悪
	製造業	9.1	58.4	32.5	▲ 23.4	7.8	11.7	51.9	35.1	▲ 23.4
	卸売業	15.9	47.6	36.5	▲ 20.6	13.3	14.3	50.8	28.6	▲ 14.3
	小売業	18.8	42.0	39.1	▲ 20.3	26.8	13.0	53.6	31.9	▲ 18.8
	サービス業	23.2	36.6	37.8	▲ 14.6	14.7	19.5	47.6	26.8	▲ 7.3
	合計	16.8	46.0	36.4	▲ 19.6	15.3	14.8	50.9	30.6	▲ 15.8
	前回	12.8	38.1	47.8	▲ 34.9		14.5	45.7	34.6	▲ 20.1
従業員		過剰	適正	不足	過一不					
	製造業	1.3	83.1	11.7	▲ 10.4	0.0				
	卸売業	1.6	87.3	7.9	▲ 6.3	▲ 1.5				
	小売業	1.4	71.0	17.4	▲ 15.9	▲ 8.5				
	サービス業	4.9	68.3	24.4	▲ 19.5	2.5				
	合計	2.4	77.0	15.8	▲ 13.4	▲ 1.6				
	前回	4.2	74.7	15.9	▲ 11.8					

「今期の状況（除従業員）」は2022年4~6月期状況であり、前年同期の2021年4~6月期との比較。来期の予想は2022年7~9月期予想であり、2021年7~9月期との比較である。「前回」欄は2022年1~3月期調査の数字。従業員は、過去との比較ではなく、業務量に照らした過不足。

■景況グラフ（売上額・業況）



※表示値＝D I（増加・好転－減少・悪化）値

※ I 期=1-3月、II 期=4-6月、III 期=7-9月、IV 期=10-12月

※2022年III 予想値